

平成24年1月27日（金）「研究プロジェクト報告会」

時間/15:00～18:00 場所/こどもみらい館4階 第1研修室

こどもみらい館では、保育園(所)・幼稚園、私立・市立・国立の垣根を越えた「共同機構」による研究事業として、保育内容の更なる充実・発展や子育て支援を目指し、「保幼小連携研究プロジェクト」「子育て支援研究プロジェクト」の2つの研究プロジェクトを発足し、研究を進めています。

上記2つの研究プロジェクトの2年間の取組について「研究プロジェクト報告会」を開催します。

また、両プロジェクトのアドバイザーでもある中京大学教授 鯨岡 峻 先生のご講評もいただきます。これから「保幼小連携」「子育て支援」を立ち上げようと思われておられる方、また、進み具合に戸惑っておられる方など、自園(所)の取組のヒントになる内容が沢山あると思いますので、多くのご参加をお待ちしています。

研究プロジェクト紹介

保幼小連携研究プロジェクト

1 目的

保育園(所)保育士・幼稚園教諭・小学校教諭が共にお互いの保育・教育を理解し合い、子どもの育ちの連続性を見通した保育・教育について考察する。

2 研究メンバーと研究主題紹介

・京都市御池保育所・京都市中京もえぎ幼稚園・京都市御所南小学校グループ

【研究主題】 主体性を育み、つなぐために

～「知る」から「理解」へともに進める連携を通して～

・京都市錦林保育所・コドモのイエ幼稚園・京都市第三錦林小学校グループ

【研究主題】 相互の成長を育み、見守る保幼小連携

3 これまでの取組内容

・合同研究会

第1回合同研究会（平成23年3月3日）、第2回合同研究会（平成23年8月1日）を開催し、各グループの進捗状況を報告し合い、互いの研究主題や方法、内容などを参考に、自グループの研究内容を再考してきました。合同研究会では、本プロジェクトのアドバイザーである中京大学教授 鯨岡 峻先生と、こどもみらい館企画推進会議研究・研修部会委員の先生方から、両グループの内容に対してのご示唆をいただき、更に研究を深めてきています。

子育て支援研究プロジェクト

1 目的

保育園(所)・幼稚園を核とした地域の子育て支援のあるべき姿について研究する。

2 研究メンバー

今井みどり（京都市保健福祉局子育て支援部保育課）・齊藤真由美（京都教育大学附属幼稚園）

・阪本文代（京都市室町乳児保育所）・高島伊代子（稲荷保育園）・前川豊子（佛光大学附属幼稚園）
・向瀬麻由佳（京都市明德幼稚園）・村上麻里（京都市修学院保育所）

3 研究主題

保育園(所)・幼稚園だからこそできる子育て支援

4 これまでの取組内容

・中間報告会

平成23年9月8日に中間報告会を開催し、研究プロジェクトの立ち上げから7月までの取組内容を報告し、今後の研究について考察してきました。こちらの研究プロジェクトでも、アドバイザーである中京大学教授 鯨岡峻 先生と、こどもみらい館企画推進会議研究・研修部会委員の先生方から、研究の内容に対してのご示唆をいただいたことで、これまでの取組を振り返り、今後、更に深めようとして研究を進めてきています。

保幼小連携

講師 木下 光二 鳴門教育大学教授

鳴門教育大学大学院学校教育研究科教員養成特別コース教授。研究分野は、幼児教育及び小学校教育。平成21・22年には文部科学省中央協議会「保・幼・小連携部会」での指導助言者を歴任。著書に「育ちと学びをつなげる幼小連携」、「幼稚園教育と小学校教育をつなぐためのカリキュラムづくり」他

幼児期の教育と小学校教育の違いを分かった上で、双方のよさを取り入れた教育を推進することが重要です。連携は、子どもの育ちや学びをつなげるために必要なことです。ですから、幼児期の教育を踏まえて連携していくことが大切です。どのように幼児期を育ててきたのかを明らかにすること、小学校でどのように育っていくのかを明らかにすることが、接続期のスタートカリキュラムを作成する上で大事です。連携を進めるためのキーワードは、「Principal(管理職)が推進力になることが大事です」「良きPartner(相手)を一人でも見つけましょう」「Curriculum(教育課程)は既存のカリキュラムを生かしましょう」「Community(地域)で子どもを育てましょう」というPPCCです。

連携の事後の話し合いを大切に、子どもたちの育ちや学びを話し合いましょう。そのためには互恵性のある活動が大切です。また、連携を繰り返すことで子どもたちに安心感が育つこともとても大切なことです。時間や空間を連続的に共有するなかで、学ぶことの意味を少しずつ獲得し、安心感や所属感、自己肯定感や成就感などが萌芽していくことが連携の活動と捉えています。無理をせず、出来ることから連携を始めましょう。

<参加者のアンケートより>

「木下先生のお話をとても楽しくワクワクとした気持ちでさせていただきました。先生のように子どもの遊びの中での学びをしっかり見てとれる感性豊かな教師でありたいと思いました」「子どもたちの力を改めて感じたりするエピソードもたくさん聞きました。大人も頑張らなければと感じました」という感想がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。[要録ページへ](#)

京都市保育園連盟共催

達成感・満足感を体得する運動プログラム実践

講師 柳澤 秋孝 松本短期大学教授

松本短期大学幼児保育学科教授。専門は幼児運動学。35年間継続研究を行い、10000名以上の幼児期の子どもに運動遊びを直接指導。10年前から大脳活動、特に前頭葉の研究に着手、「運動が子どもの精神的発育に大きな影響を及ぼす」との仮説から保育現場における運動保育援助の効果を調査・研究中。著書に、「生きる力」を育む幼児のための柳澤運動プログラム・基本編、「できた!体験が子どもを伸ばす・からだ力(りょく)がつく運動遊び」、ベネッセコーポレーション「こどもちゃれんじ」、新学社「ポピー」教材の運動遊び全ライン監修指導・執筆 他

子どもたちの平均活動量は、昭和55年前後ぐらいの1万6千歩から、現在は4千歩まで落ち込んでいます。就学前の日常生活の中での活動量が減少しているため体の機能も身につけていませんし、同時に、他者との会話、コミュニケーション量も少なくなり、心が育たないということになっています。したがって、大人側・教育者側から、6歳までの時期の子どもたちに活動量を増やす支援、援助をしていく必要性があります。

幼児期に行われる「できるか・できないか」という誰が見ても分かる種目(逆上がり、短縄跳びの連続跳び、跳び箱の開脚跳び越し、側転の4種目)を出来るように援助することが重要です。少なくとも3種目以上は達成させるように支援します。

「柳澤運動プログラム」では、支持力、跳躍力、懸垂力の三つを支援することによって、最終的に、逆上がり、縄跳び、跳び箱の開脚跳び越し、側転を達成します。

実技指導では、①支持力を身につけるクマさん歩き、②縄跳びに必要な跳躍力を身につけるカンガルーさん跳び、③跳び箱の開脚跳び越しにつながるウシガエルさん跳び、④逆上がりに必要な懸垂力を身につけるワニさん歩きを学びました。

<参加者のアンケートより>

「昨年度、参加させていただきました。実技を希望していたので、とてもためになりました」「できるようになるまでの体作りとして、遊びながら運動し筋力をアップする具体的な方法を聞いてとても参考になりました」など、今後の保育に活かせる学びになったという感想がありました。

「柳澤運動プログラム職員研修用」「小学校低学年の運動遊び」のDVDを貸出しています。[貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。[要録ページへ](#)

子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
(「子どもを共に育む京都市民憲章」より)



発行日 平成23年11月14日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
Tel (075)254-5001 Fax (075)212-9909
URL http://www.kodomomirai.or.jp